

1 ▶ 糖尿病の頻度とその変遷

まとめ

- 日本の糖尿病の有病者数は増加しており、2015年時点で約700～1,000万人と推計されている。

糖尿病の頻度とその変遷

①国民健康・栄養調査¹

- 健康増進法（2002年）に基づいて、毎年実施されている調査で、2013年には全国から抽出された3,285人を対象に「糖尿病が強く疑われる人」の頻度が調べられた。
- 「糖尿病が強く疑われる人」（HbA1c \geq 6.5%あるいは糖尿病治療を受けている人）は、男性16.2%、女性9.2%で、経年的にわずかに増加している（図1）。
- 2012年の調査では、日本の「糖尿病が強く疑われる人」は950万人と推計された。

②包括的な糖尿病有病率調査²

- 国民健康栄養調査，糖尿病実態調査，多目的コホート研究，久山町研究，舟形町研究などを対象とした約16万人の調査である。
- 日本を代表する地域住民を対象としたコホート研究も含まれ，対象者が大規模であるが，国民健康栄養調査に比べて一般化可能性は劣る。
- 男女合わせた糖尿病（医師からの糖尿病診断，空腹時血糖値 \geq 126 mg/dL，75 g 経口ブドウ糖負荷後

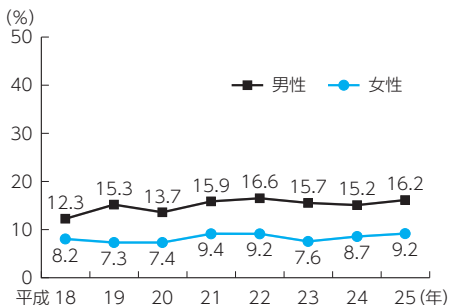


図1 「糖尿病が強く疑われる人」の経年的な頻度
(厚生労働省. 平成25年国民健康・栄養調査結果の概要¹より)

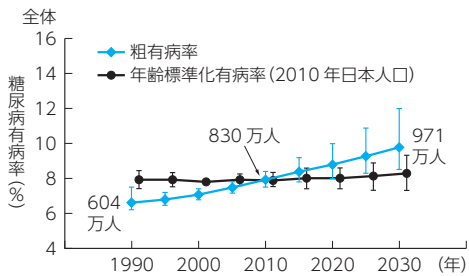


図2 包括的な糖尿病有病率調査
(Charvata H, et al. J Diabetes Investig. 2015; 6: 533-42²より)

2時間血糖値 ≥ 200 mg/dL, HbA1c $\geq 6.5\%$, のいずれかを満たす場合)の頻度は、1990年に6.6% (604万人)、2000年に7.1% (714万人)、2010年に7.9% (830万人)であり、2030年には9.8% (971万人)まで上昇するものと予測された(図2)。

④国際糖尿病連合 (IDF) による糖尿病有病率調査

- 2015年版 [International Diabetes Federation (IDF) Diabetes Atlas, 第7版: <http://www.idf.org/diabetesatlas>]では、世界の糖尿病患者は約4億1,500万人で11人に1人は糖尿病を有すると推計された。
- 日本の糖尿病有病者数は約720万人で世界第9位と推計された(図3)。

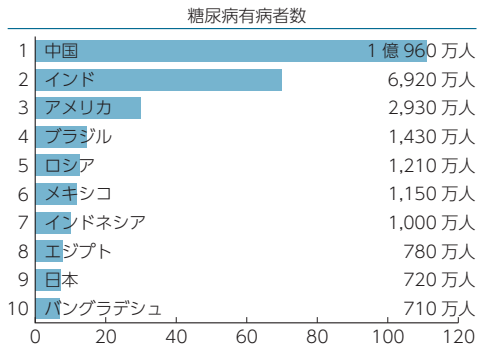


図3 IDF Diabetes Atlas, 第7版 (<http://www.idf.org/diabetesatlas>)

■参考文献

- ①厚生労働省. 平成 25 年国民健康・栄養調査結果の概要.
<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10904750-Kenkoukyoku-Gantaisakukenkouzoushinka/0000106403.pdf>
- ②Charvata H, Goto A, Goto M, et al. Impact of population aging on trends in diabetes prevalence: A meta-regression analysis of 160,000 Japanese adults. J Diabetes Investig. 2015; 6: 533-42.

〈後藤 温〉

2 ▶ 年齢・男女差

まとめ

- 加齢とともに糖尿病有病率が上昇するが、加齢によりインスリン感受性やインスリン分泌能が低下するものと考えられている。
- 日本では、主に人口の高齢化により粗有病率が増加しているものと考えられる。
- 日本では、糖尿病有病率は女性よりも男性のほうが高い。
- 糖尿病有病率の男女差の理由として、肥満度や性ホルモン作用の違いなどが想定されている。

年齢・男女差

①国民健康・栄養調査¹⁾

- 年齢による標準化を行うと、男性では「糖尿病が強く疑われる人」の割合がわずかに増加している傾向がみられた(図1)。
- 男女別にみると、2013年は、「糖尿病が強く疑われる人」が男性16.2%、女性9.2%であり、女性より男性で頻度が多い(1-1の図1参照)。
- 年齢階級別の「糖尿病が強く疑われる人」の頻度は男女とも年齢とともに上昇しており、加齢によって糖尿病有病者数が増える傾向がみられる(図2)。

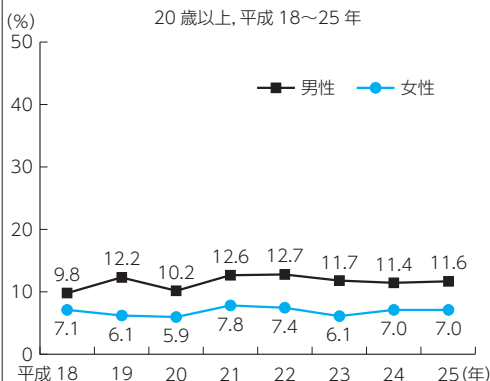


図1 年齢標準化後の「糖尿病が強く疑われる人」の経年的な頻度

(厚生労働省,平成25年国民健康・栄養調査結果の概要。
<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10904750-Kenkoukyoku-Gentaisakukenkouzoushin-ka/0000106403.pdf>より)

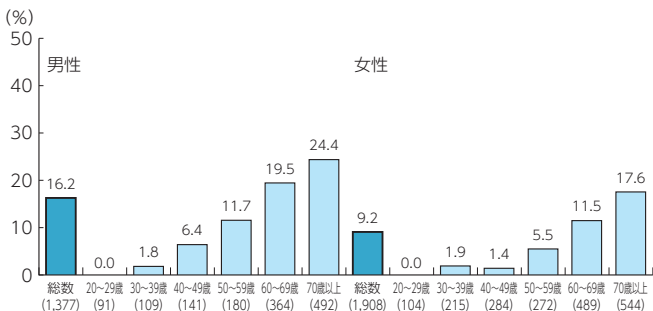


図2 年齢階級別の「糖尿病が強く疑われる人」の頻度

(厚生労働省. 平成25年国民健康・栄養調査結果の概要. <http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10904750-Kenkoukyoku-Gentaisakukenkouzoushinka/0000106403.pdf>より)

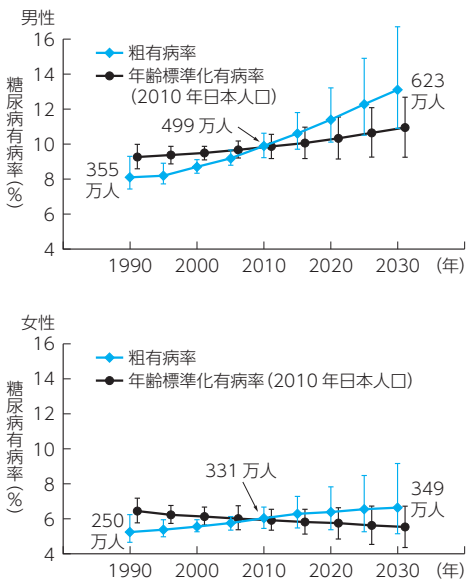


図3 包括的な糖尿病有病率調査

(厚生労働省. 平成25年国民健康・栄養調査結果の概要. <http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10904750-Kenkoukyoku-Gentaisakukenkouzoushin ka/0000106403.pdf>より)

②包括的な 糖尿病有病率 調査^②

- 年齢による標準化を行うと、男女を合わせた糖尿病有病率の経年的な変化を認めなかった（I-1の図2参照）。
- 男女別の糖尿病の粗有病率は、1990年に男性8.1%、女性5.3%、2000年に男性8.7%、女性5.6%、2010年に男性9.9%、女性6.1%と推定され、女性より男性での頻度が高かった（図3）。
- 年齢による標準化後、男女別の糖尿病有病率は経年的に女性でやや減少、男性でやや増加していた（図3）。

■参考文献

- ①厚生労働省. 平成25年国民健康・栄養調査結果の概要.
<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10904750-Kenkoukyoku-Gantaisakukenkouzoushinka/0000106403.pdf>
- ②Charvata H, Goto A, Goto M, et al. Impact of population aging on trends in diabetes prevalence: a meta-regression analysis of 160,000 Japanese adults. *J Diabetes Investig.* 2015; 6: 533-42.

〈後藤 温〉